

育和地区の皆様へ

平成 18 年 2 月 25 日

百済貨物駅問題対策委員会 委員長 藤原 正信

去る 2 月 11 日育和小学校講堂で行われました、第 3 回百済貨物駅問題住民大会において出席者の賛同のもとに決議され事項です。決議された事項は大阪市、鉄道建設・運輸施設整備支援機構(機構)、議員に強く要望させていただき、育和連合町会との調整を図ります。

育和にとって将来にわたる重要な問題です。今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

決議事項

1. JR 機構・大阪市は地元住民の大多数意見を尊重せよ。
2. 子供たちを環境悪化と交通事故から守りぬこう。
3. これからは育和連合、百済貨物駅問題対策委員会が一体となって行動すること。

大阪市 1.平成16年4月6日付け「要望書」、および署名 10,089 通を付けて育和連合、育和社協、百済貨物駅問題対策委員会から大阪市長にあてて提出した同年 6 月 20 日付け「要求書」に回答すること。

2.現況の環境調査を行い、公表すること。

機構

1.住民の合意なしに着工しないこと。

2.住民が移転計画に同意できるか否かの前提となるていねいで詳細な説明会を開くこと。

3.吹田で機構が行うことを育和地区住民にすべて知らせること。

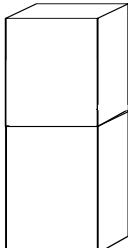
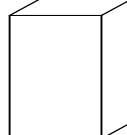







育和連合町会 1.育和連合、百済貨物駅問題対策委員会の主催する住民大会を早急に開催すること。

議員

1.住民大会には出席し、情報を把握し、住民の要望に沿った活動をする。

吹田との比較

百済と吹田の比較

	百済	吹田
貨物量年 梅田からの貨物量は最大100万トンつつ しかし、百済は現在扱い貨物があるため その最大量は220万トンとなる可能性	既扱い分 梅田分100万トン以下 	100万トン以下 
トラック台数1日 直線で新大阪まで12Km。 最悪では新大阪から百済 までぎっしり並んだトラック が毎日往復することになる	最大2400台 	1000台以下 
環境問題	環境影響評価条例  条例の範囲外として行われない 環境への影響 軽微	実施された 
	新設道路 走行ルートを決めるだけ 馬場地下道 南行き新設のみ	 約2Kmのコンテナ トラック専用道路の新設
	緑化  貨物駅の面積の最大3%	 吹田 15% 摂津 7%
	まちづくり 吹田の $\frac{1}{200}$ 貨物駅の面積の0.1ヘクタール わずか	貨物駅の面積の約20ヘクタール

広域避難所



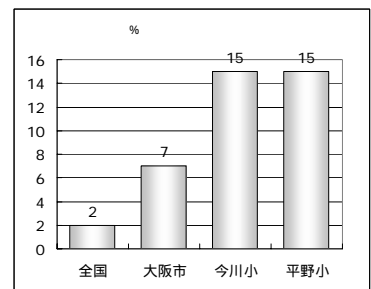
大火災発生時、半径2Km以内の約19万人が避難する場所
 しかし、約9万人分の面積が不足している

コンテナトラックからの排気ガス、振動、騒音、交通事故、渋滞などが懸念される。
 計画案ではコンテナトラック台数は吹田の2倍前後でありながら本問題の事業主体である機構は調査の結果、百済では環境の影響が軽微との結論。

子どもたちや高齢者へ大きな影響が考えられる。百済貨物駅周辺の環境は無視されようとしている。

育和の皆様 これでも容認できますか？

小児ぜんそく



育和小では？

